



文部科学省 国立大学改革強化促進補助金

千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター

平成 29 年度 事業報告書

平成 30（2018）年 3 月

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
III. センターの取り組みと成果（平成 29 年度）	9
1. 教育	9
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	9
2) 新たな IPE プログラムの開発	11
3) FD の充実	13
2. 実践・社会貢献	18
1) IPE 研究拠点からの発信	18
2) IPW の促進	19
3) 政策提言	20
3. 研究	21
1) 研究プロジェクトの組織化、研究の推進	21
4. 組織運営	24
1) 予算と人材の確保	24
2) PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）に基づく組織運営	24
3) IPERC の将来構想	25
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	26
1. 平成 29 年度外部評価委員会の開催	26
2. 外部評価委員による講評	27
3. 外部評価委員の講評のまとめ	30
V. 資料	31
(資料 1) IPERC 事業目標	31
(資料 2) 亥鼻 IPE 数値実績	32
(資料 3) 学習のまとめ（別冊）	35
(資料 4) 平成 29 年度 試行事業報告 クリニカル IPE（別冊）	35
(資料 5) 地域貢献事業実績	36
(資料 6) 平成 29 年度研究業績	41

I. ごあいさつ

2015年1月1日に開設したIPERCは4年目を迎え、本年度末には中期目標の達成状況に関する評価を行いました。教育、社会貢献、研究、運営の4つの柱ごとに中期目標の達成状況をみてみます。

教育では、いのはなIPEの改善と安定的実施およびステップ5（クリニカルIPE）の実施を行いました。看護学部の新カリキュラム導入に伴い、次年度より開講年次の変更を予定しており、今年度はその準備も行いました。それと並行して、内容の検討も時間をかけて実施してより効果的な教育プログラムになったと思います。クリニカルIPEについても大学病院での導入部署が増加し、職員の方々のIPEへの理解が進化したことを実感しています。学生さんたちとの交流から得たことも大きく、学生さんたちとともに学びあうことの重要性を感じました。

今年度は海外との教育交流も活発に行いました。インドネシア大学からのIPEカリキュラムマネジメントに関するコンサルテーションの依頼を受け、IPERCはインドネシアのIPEのキックオフシンポジウムに招かれました。また英国、ドイツ、デンマーク、アメリカなどのIPEに関する基礎調査として視察を行いました。結果として海外とのIPE交換留学にむけたプログラム開発の準備が整いました。

社会貢献では、千葉県等自治体からの委託を受けたIPW研修事業を実施しました。認知症に関わる多様な職種を対象としたIPW研修の開発実施はたいへん刺激的で先端的なものができたと思います。また千葉大学医学部附属病院の全職種対象新人研修において、IPE企画を実施しました。千葉市の地域包括ケアシステムの推進に協力し、住民との協働も定着しつつあります。加えて今年度は厚生労働省からの委託研究として、全国の医療福祉系人材養成校を対象とした全国調査を実施し、大学のみならず専門学校でのIPEの標準化を目指した基礎的研究に着手しました。

研究では、Chiba Interprofessional Competency Scale（CICS）を完成させ論文にし、国内外からの問い合わせ、尺度使用の依頼が相次ぎました。これと並行して亥鼻IPEの効果評価に関するデータ解析を進めています。また医学部、薬学部、看護学部の若手教員とのコラボレーションによる研究活動が活発化していることは特筆すべきことです。亥鼻キャンパス全体に、「自職種も他職種も好きになる」「自職種と他職種と一緒に患者中心の実践と教育と研究を行っていこう」という機運が満ちてきていることを感じます。

2か月に一度程度亥鼻キャンパスで開かれる3学部合同のFD企画「亥鼻FDプロジェクト」も立ち上がっています。研究や教育についての教員の資質向上を目指して地道に取り組んできたことの成果が表れつつあると思います。

運営面では、次年度にむけた足場を固める一年でした。将来構想委員会を立ち上げ、補助金の「そのあと」の運営を真剣に模索しました。資金獲得のためには、IPEに関する教育内容の精選、提供方法の普遍化など多くの課題がありますが、可能性もまた感じています。

平成29年度は、これまで種をまいてきたことの芽がでたという1年でした。しっかりした幹をつくり花が咲くように、平成30年度の活動を共に学び、お互いから学び、お互いについて学びながら、行っていきます。

最後に、平成29年度のIPERC事業および亥鼻IPEにご協力をいただいたすべての皆様に感謝いたします。

平成30年3月31日
センター長 酒井 郁子

Ⅱ．専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 年 2 月 23 日、平成 27 年度第 1 回運営委員会で決定した。

1. 理念、ビジョン、ミッション

1) 理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

2) ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部（医学・薬学・看護学）の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

3) ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

（1）教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

（2）実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象の IPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

（3）研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

（4）組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

2. 組織

当センターは、看護学研究科の研究・教育施設として位置づけられている。センター教員は、特任教員と3学部から兼務教員である。下記に組織図および各会の名簿を示した。

センター教員は「教育実践研究部会」を年2回開催し、研究、教育・実践、および研修活動として、下記の活動を行っている。

研究として

- ・ IPE の評価研究、理論化、データ蓄積
- ・ IPW の理論化、実証研究、橋渡し研究
- ・ IPE（学部・大学院）及び IPW プログラムの開発・普及
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

教育・実践として

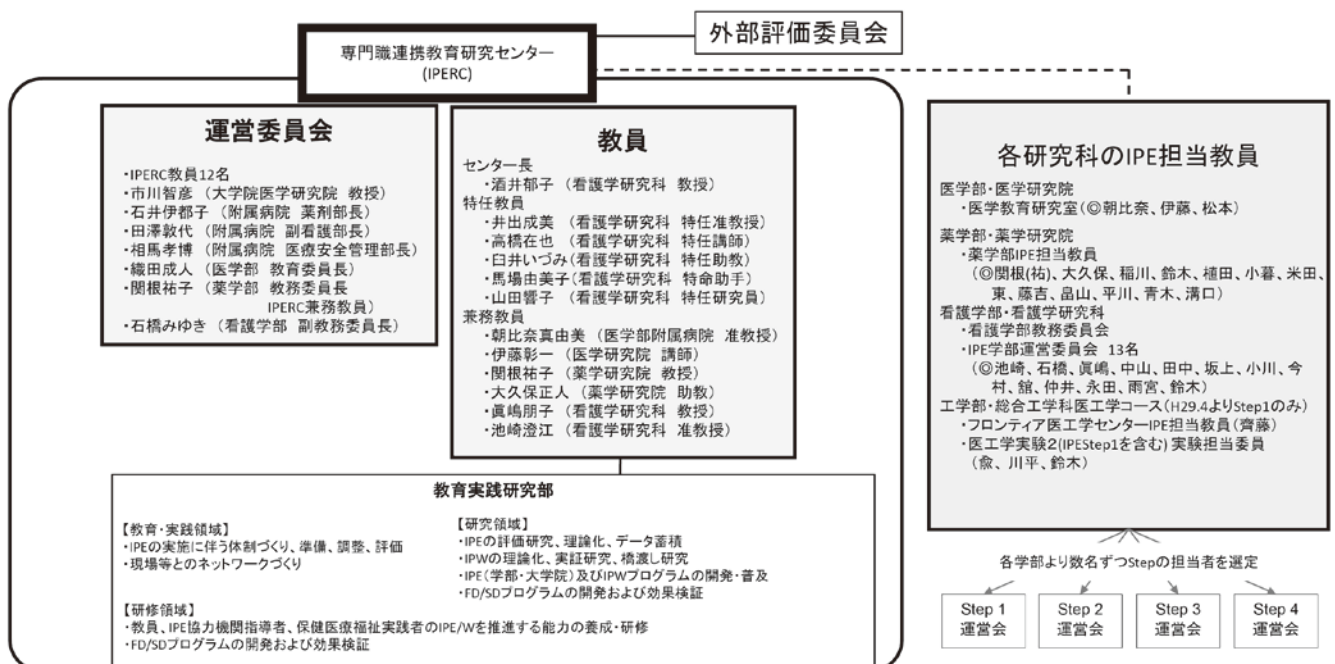
- ・ 3 学部等のメンバーによる IPE の実施に伴う準備・調整・体制づくり・評価
- ・ 現場等とのネットワークづくり

研修として

- ・ 教員、IPE 協力機関指導者、保健医療福祉実践者の IPE/W を促進する能力の養成・研修
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

また、「教育実践研究部会」は、センター教員が部会員であり、3 学部と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。センターの運営については、センター長、センター教員その他、3 学部の教務委員長および附属病院に委員を依頼し、定期開催している。また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。センターの事務所管は、看護学部事務部センター事業支援係が担当することとなった。亥鼻 IPE は、看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携して行っている。

IPERCと亥鼻IPE の組織図 2017.4.1時点



平成 29 年度センター職員名簿

センター長

- ・酒井 郁子（看護学研究科 教授）

特任教員

- ・井出 成美（看護学研究科 特任准教授）
- ・高橋 在也（看護学研究科 特任講師）
- ・臼井いづみ（医学部附属病院 特任助教）
- ・山田 響子（看護学研究科 特任研究員）
- ・馬場由美子（看護学研究科 特命助手）

兼務教員

- ・関根 祐子（薬学研究院 教授）
- ・眞嶋 朋子（看護学研究科 教授）
- ・朝比奈真由美（医学部附属病院 准教授）
- ・池崎 澄江（看護学研究科 准教授）
- ・伊藤 彰一（医学研究院 講師）
- ・大久保正人（薬学研究院 助教）

事務補佐

- ・高野 佳奈 ・吉岡 智子（平成 29 年 9 月まで）

平成 29 年度センター運営委員名簿

- ・市川 智彦（附属病院 副病院長）
- ・石井伊都子（附属病院 薬剤部長）
- ・田澤 敦代（附属病院 副看護部長）
- ・相馬 孝博（附属病院 医療安全管理部長）
- ・織田 成人（医学部 教育委員長）
- ・関根 祐子（薬学部 教務委員長）
- ・石橋 みゆき（看護学部 副教務委員長）
- ・上記 センター特任教員・兼務教員

平成 29 年度センター外部評価委員名簿

- ・川島 啓二（京都産業大学共通教育推進機構 教授）
- ・田邊 政裕（千葉県立保健医療大学 学長）
- ・渡邊 秀臣（群馬大学大学院保健学研究科 教授）
- ・富田 薫（千葉市保健福祉局地域包括ケア推進課 課長）
- ・永田由美子（千葉大学医学部 SP（模擬患者）会）

3. 専門職連携教育研究センター規程

センターの規定は、平成 26 年 10 月に千葉大学理事会で決定した。

(趣旨)

第 1 条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、専門職連携教育及び連携実践を発展・進化させるための基盤体制を組織的に位置付け、我が国及びアジア圏の専門職連携教育実践の研究、教育の推進拠点として機能することを目的とする。

(組織)

第 3 条 センターに、次の研究部を置く。

一 教育実践研究部

二 その他、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）が必要と認めた研究部

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

一 センター長

二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教

三 その他の職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、看護学研究科長が指名する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を総括する。

(運営委員会)

第 6 条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。

第 7 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 センターの運営に関する事項

二 その他運営委員会が必要と認めた事項

第 8 条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 センター長

二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長

三 その他センター長が必要と認めた者

第 9 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

第 10 条 運営委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところ

による。

第11条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第12条 センターにおいて外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 センターの事務は、看護学部事務部において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、看護学研究科教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規程は、平成27年1月1日から施行する。

2 最初に指名されるセンター長の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

Ⅲ. センターの取り組みと成果（平成 29 年度）

センターの理念・ミッション・ビジョンに基づき 5 年間の長期目標と 3 年間の中期目標を設定し、さらに短期目標として平成 29 年度の目標を設定した。（資料 1）

センターの目標は、「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」の 4 本柱に沿って、掲げている。4 つの柱ごとに長期目標・中期目標を見出しとして、平成 29 年度の事業の概要と成果を述べる。

1. 教育

1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の Step1・2・3・4 は、3 学部で運営責任学部を分担し 3 学部の教員とセンター教員が協力して運営を行っている。Step1 は看護学部、Step2 は薬学部、Step3 は毎年持ち回りで平成 29 年度は看護学部、Step4 は医学部である。以下、平成 29 年度の短期目標ごとにその実績を述べる。Step1・2・3・4 の科目内容及び実績の詳細は別冊として「学習のまとめ」に記載する。また学生数等の実績については（資料 2）に掲載した。

（1）亥鼻 IPE の改定、安定的実施

①ファシリテーターの導入

亥鼻 IPE では、従来から Step 1 の振り返りに学内の教員によるファシリテーターを配置していた。平成 26/27 年度の Step3 で学外の保健医療福祉職のファシリテーター導入を試み、平成 27 年度には Step2 と 3 の初回にファシリテーターを導入し、ファシリテーターの役割の明確化と共に研修会を開催している。平成 28 年度は、各 Step の運営会の検討により、従来からの Step1 での実習の振り返りグループワーク、Step3 の 2 日目に実施する事例を用いた対立の解決を目指すグループワークに、ファシリテーターを導入した。

平成 29 年度は、授業評価アンケート、教員アンケートの結果から、学生の自立的学習を促すための仕組みを各 Step の運営会で検討して充実させ、Step1～3 のグループワークを授業担当教員によるファシリテートで実施した。外部からのファシリテーターの募集は行わなかった。

【Step1】平成 29 年 5 月 31 日、6 月 21 日、28 日（水）

学内教員 48 名（附属病院医師 8 名、医学部 4 名、看護学部 16 名、薬学部 11 名、工学部 9 名）

役割：実習準備、実習のふりかえり、発表会準備のグループワークの促進

【Step2】平成 29 年 5 月 11 日、18 日、6 月 8 日、15 日（木）

学内教員 32 名（医学部 8 名、看護学部 8 名、薬学部 16 名）

役割：チーム作り、実習準備、実習の振り返り、発表会準備のグループワークの促進

【Step3】平成 29 年 12 月 26 日（火）27 日（水）

学内教員 28 名（医学部 2 名、看護学部 15 名、薬学部 11 名）

役割：チーム作り、グループワークの促進

②平成 30 年度 Step3 の運営方法の検討

看護学部は平成 29 年度から新カリキュラムを導入しており、平成 30 年度は Step 3 を 3 年生と 2 年生が同時に受講することになっている。そのため、受講人数が 80 名増加するのに伴い、教室の確保、教員の確保、学生のグルーピングの方法などの運営方法と運営日程について運営委員会にて検討し決定した。

③テレビ会議システムの活用の検討

平成 26 年度に配置したテレビ会議室システムは、当センターと、看護学部の講義室 2 か所、医学部の講義室 2 か所、薬学部のセミナー室を結んでいる。平成 29 年度は、Step1 で受講学生数が増加し、テレビ会議システムを導入していない教室を使用せざるを得ない状況となったため、運営会で検討の結果、使用を取りやめた。また、Step3 では、使用教室の移動があり、通信テストを行う時間的人的余裕がないため、運営会で検討の結果、使用を取りやめた。

④アンケート等をもとにした次年度の科目の精錬

各 Step の授業評価アンケート、教員アンケート、実習施設アンケート、FT からのアンケート結果を総合的に検討し、次年度のプログラム変更について検討を行った。

【Step1】

平成 29 年 8 月 22 日（火）検討会議開催。引き続き工学部医工学コース専攻は 3 年生が受講する。医工学コースの学生の動機付けを丁寧に行う。実習がより充実するような演習内容を工夫する。開催場所を西千葉に変更する案を検討したが、施設利用の予約が難しく断念した。

【Step2】

平成 29 年 8 月 2 日（水）、平成 30 年 3 月 2 日（金）検討会議開催。「チームビルディング出来る能力を身につける」という目的と学習内容が微妙にあっていないという課題を解決するため、プログラムを通してチームビルディングする構造やアクティブラーニングを取り入れたプログラムへと授業内容を大幅に変更することになった。また、実習施設との連絡調整方法を改善するため、最終的な集約を IPERC が行なう事とした。

【Step3】

平成 29 年 10 月 24 日（火）運営委員会にて、平成 30 年度看護学部が 2 学年同時に受講することによる運営方法について検討した。いのほな記念講堂を使用する。グループ数を増やし、7 人×52 グループで実施する。不足する薬学部生分については、工学部やコンソーシアムの他大学などに声をかけて 10 名程度の学生を確保する。教室数は本年度と同じ 7 で実施する。日程は平成 30 年 12 月 25 日（火）、26 日（水）とする。

【Step4】

平成 29 年 10 月 24 日（火）運営委員会にて、看護学部のカリキュラム改変に伴う平成 31 年度の 3 年生、4 年生の同時受講に向けて、実施方法を検討した。現行と同様 3 日間×2 回で実施することとなった。学生のレジネスに合わせてシナリオの難易度を検討することとなった。

(2) クリニカル IPE 試行事業

将来に向けて臨床の場で実践的な IPE 科目を開発するために、平成 27 年・28 年度に引き続き、クリニカル IPE の試行を大学病院で実施した。平成 29 年 7 月に附属病院の 12 診療科にて各 3 日間、クリニカル（診療参加型）IPE を試行した。16 グループ 50 名（医学部 5 年生 17 名、薬学部 5 年生 16 名、看護学部 4 年生 17 名）が参加した。また、12 診療科・10 病棟において、医師 14 名、薬剤師 14 名、看護師 20 名にご指導をいただいた。来年度も試行事業として実施する予定である。（資料 4：別冊 クリニカル IPE 試行事業報告書）

2) 新たな IPE プログラムの開発

(1) 海外との交流

①英国レスター大学及び欧州における IPE 関連大学・研究機関との教育・研究交流

1-1：英国レスター大学との交流推進

9 月 1 日、酒井センター長がレスター大学を訪問し、Richard Holland 医学部長、Elizabeth Anderson 教授らと協議し、以下の成果があった。1) 両大学の医学部間の MOU を締結した。2) 来年度に新設する看護学部における IPE プログラムでの研究レベルでの交流推進を確認した。3) 酒井センター長より、JSPS Core to Core プログラムの共同申請を提案し、来年の申請に向け、引き続き検討を行なっていくことを確認した。4) レスター大学でのクリニカル IPE、学生 IP チームによるホームレス支援の視察・活動紹介があった。

1-2：欧州における IPE 関連大学・研究機関との交流

4 月 27 日、スイス・保健科学大学の国際交流部局担当者(2 名)が IPERC を訪問。千葉大学の亥鼻 IPE の紹介及びヨーロッパでの IPE 関連学会に関する情報交換を行った。

9 月 2 日～7 日、上記レスター大学に引き続き、酒井センター長と朝比奈兼務教員が、セントジョージ大学（英国）、JSPS ロンドン連絡研究センター、デュッセルドルフ大学（ドイツ）、シャリテ大学（ドイツ）、オーフス大学（デンマーク）を訪問し、各大学における IPE の実施状況や交流の可能性について議論・検討を行った。

②アジア圏大学への IPE 普及の協力について

2-1：インドネシア大学(UI)におけるクリニカル IPE の構築及び IPE 研究への協力

UI は、新設大学病院（2018 年 7 月に完成予定）を基礎としたクリニカル IPE カリキュラムの構築中であり、平成 29 年 1 月より、コンサルタント会社を経由して IPERC に継続的なコンサルテーションの依頼があった。これに伴い、今年度は以下の経過があった。1) 7 月 13 日及び 12 月 5～7 日の 2 回にわたり、UI チーム(7 月:9 名、12 月:11 名)による IPERC、千葉大学医学部附属病院、家庭医診療所への視察を受け入れた。UI チームの目的は、大学病院のハード及びソフト面でのシステム視察、IPERC への IPE のコンサルテーション、地域医療の視察であり、IPERC は各視察先への総合調整と、IPERC、家庭医診療所における受け入れ・説明を担当した。2) 10 月 17 日に、酒井センター長、井出特任准教授、臼井特任助教、馬場特命助手が UI を訪問した。千葉大学の亥鼻 IPE の紹介と、UI での IPE カリキュラム構築に向けての計画と今後のコンサルテーションについて協議した。IPERC 側からは、平成 30 年 4 月に再度 UI を訪問し、IPE カリキュラム構築の具体的詰めと、

UIにおける IPE に関する研究面でのコンサルテーションを実施する予定である。

2-2: 海外からの学生に対する IPE 学習体験

昨年度に引き続き、海外から千葉大学を訪問する学生を対象とした IPE 学習体験を実施した。今年度は、タイ・コンケン大学(7/29、2 名)、インドネシア・ガジャマダ大学(10/31、6 名、引率教員含む)、中国・復旦大学(1/26、35 名、引率教員含む) が IPERC を訪問し、看護学部内の教室及び医学部附属病院内クリニカルスキルズセンターにて、IPE 学習体験を実施した。復旦大学の学生に対しては日本語・中国語の通訳を介し、その他の大学の学生とは英語を使用して、IPE をテーマにしたワークショップを実施し、今後の IPE の国際化に向けての教員側のコンテンツとスキルの発展に結びつくものであった。

③米国トーマス・ジェファソン大学(TJU)における IPE 部門との交流・ワークショップ

5 月 2 日～5 日、酒井センター長、井出特任准教授、高橋特任講師、朝比奈・伊藤・大久保兼務教員が、TJU における「Japan Weeks」に参加し、以下の成果を得た。1) IPE を主題とした国際シンポジウムで研究発表をし、両大学の研究交流を図った（千葉大学からの発表者は、酒井センター長、井出特任准教授、朝比奈兼務教員、伊藤兼務教員、ほか 3 名であった）。2) TJU における IPE 推進部門のファカルティと、TJU における IPE のカリキュラムについてディスカッションを行った。3) TJU における「Empathy Scale」の開発及びその教育への実装について、開発者の Hojat 教授へのヒアリングを行った。4) シミュレーションセンターの視察を行った。

④米国ウィスコンシン州におけるヘルスサイエンス関連大学・施設視察と情報交換

10 月 9 日～13 日、高橋特任講師が、米国ウィスコンシン州におけるヘルスサイエンス関連大学・施設を訪問し、情報交換を行った。訪問先は、ミルウォーキー市ムスリム・ヘルス・コミュニティセンター、VITAS（ホスピスケア情報センター）、ウィスコンシン大学看護学部、アルバーノ大学看護系コース、カーディナル・ストリッチ大学看護学部、ウィスコンシン医科大学である。ウィスコンシン医科大学は、姉妹校であるマーケット大学看護学部と提携し、IPE を実施している。同大学 IPE 担当コーディネーターとディスカッションし、亥鼻 IPE が 4 年間の必修プログラムであること、対立解決のプログラムを持っていることを高く評価された。

平成 29 年度は、海外交流という視点では、亥鼻 IPE のモデルとなった Strand Model を実施するレスター大学などの IPE 先行大学との交流や情報獲得といったフェイズから、10 年間の亥鼻 IPE の教育・研究蓄積を背景として、アジアの諸大学における IPE のコンサルテーション実施というフェイズが新しく生まれてきたといえる。この新しいフェイズにおいて、今後継続的にパートナーシップを組むことが見込まれるのがインドネシア大学である。来年度以降、レスター大学との研究交流と並行して、インドネシア大学やその他のアジア地域への IPE の教育普及やそのコンサルテーションを計画している。

(2) 千葉県内の大学間連携

- ①千葉県内薬学系大学のコンソーシアム 千葉県内の薬学系大学でコンソーシアムを組んでおり、本学薬学部も参加している。このコンソーシアム協定校のうち、城西国際大学薬学部の学生が亥鼻 IPE に参加している。平成 29 年度は、4 年生 4 名が Step3 に参加した。これらの学生は、コンソーシア

ムで作成した IPE の e-learning で事前学習を行っている。

3 年間で、城西国際大学から、Step4 に 1 名（6 年生）、Step3 に 5 名（4 年生）が参加した。学生たちからは非常に刺激になったという感想が聞かれた。

②千葉県内の他大学との連携

本年度は千葉県立保健医療大学からの学生の参加希望はなかった。

千葉県立保健医療大学からは、3 年間で延べ学生 19 名、教員 5 名が、Step3 に参加した。また、同大学の IPE 実装に向けた教員 FD およびコンサルテーションの依頼を受け、センター長が対応した。

（3）大学院 IPE プログラム

本学看護学研究科には、災害看護グローバルリーダー養成プログラムがある。これは高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学と共同した 5 年一貫の博士課程「共同災害看護学専攻（DNGL）」である。この専攻で開講している「専門職連携実践論」及び「災害時専門職連携演習（災害 IP 演習）」の 2 科目について、酒井センター長が科目責任者として担当し、当センター教員が協力している。

具体的には、臼井特任助教が 12 月 5 日に集中演習のための事前学習を担当した。さらに、2 月 19 日～21 日の集中演習のための調整を酒井センター長が、準備を臼井特任助教が中心となって進め、ボランティア住民については井出特任准教授が担当した。

集中演習には、IPERC 教員 5 名（酒井、井出、高橋、臼井、馬場）、環境リモートセンシング研究センター教授 1 名、園芸学研究科准教授 1 名が参加した。千葉大学以外の大学・機関より、演習協力者 10 名、見学者 2 名、ボランティア 10 名、TA7 名が演習に参加した。

多方面に渡る専門家の協力を得て実施できた。また、共同災害看護学（DNGL）の授業評価で最高評価を得た。

（4）他大学との連携

当センターの開設以来、他大学及び大学院から IPE への協力要請が多数寄せられている。本年度は、他大学の依頼を受け、学生への講義および教員の FD の講師を務めた。そうした機会にお互いの IPE の課題・工夫などについて情報交換した。また学生交換留学について、すでに実施している大学と情報交換の機会を持ち、検討を重ねた。これらの取り組みは、当センターの教育事業であるとともに実践（社会貢献）事業としてもとりまとめ、巻末資料に掲載している。

また、厚生労働省の行政推進調査事業の採択を受け、看護師等学校養成所における IPE の推進方策に関する研究に着手した。その研究の一環で、IPE を実装している大学・看護師等養成所の教員から IPE 実装の課題や工夫について聞き取りをする機会を持った。

3) FD の充実

（1）亥鼻 IPE ファシリテーター養成プログラムの実施

亥鼻 IPE の Step1～4 には多くの教職員が関わっている。また実習施設として多くの外部機関の専門

職の方々にご指導をいただいている。そのため各 Step で、担当教員への FD および実習担当者への説明会を実施した。以下、次のように略語を使用する。

FD...教員対象の研修

SD...附属病院職員、外部実習受け入れ機関の指導担当専門職対象の研修

【Step1】 FD/SD 6月7日（水）

23名出席（医学部5名、看護学部8名、薬学部2名、工学部5名、IPERC3名）

ふれあい体験実習のふりかえりグループワークでのファシリテーションをご担当いただくため、ファシリテーションの目的および実施上の留意点について重点を置いて実施した。

【Step2】 FD/SD 4月27日（木）

31名出席（医学部1名、看護学部1名、薬学部6名、大学病院医師10名、外部実習機関実習担当者11名、IPERC4名）

フィールド実習（医療保健福祉機関の専門職連携の実際を見学する）を受け入れる現地指導担当者を集めた説明会を実施した。実習の目的、学ばせたい内容、学生の準備状況、留意事項等を説明した。

【Step3】 FD 12月14日（木）

21名出席（医学部2名、看護学部10名、薬学部4名、附属病院医師1名、IPERC4名）

対立の解決のグループワークへのファシリテーションをご担当いただくため、ファシリテーションのポイントおよび留意事項について重点を置いて実施した。

【Step4】 FD/SD 8月25日（金）

29名出席（附属病院医師6名、看護師4名、薬剤師1名、ソーシャルワーカー1名、栄養士2名、理学療法士1名、作業療法士1名、医学部2名、看護学部5名、薬学部3名）

学生が、模擬患者への退院計画を立てる際に各専門職からのコンサルテーションを受けるため、コンサルテーションの基本的知識・学生の準備状況等に重点を置いて実施した。

（2）亥鼻 IPE の安定的なファシリテーター確保の組織化

①教育指導者確保

平成29年度は、Step1において実数46名、Step2において実数23名、Step3において実数28名、Step4において実数31名の教員が教育指導に当たった（附属病院の医師含む）。医師以外の附属病院の専門職（実数34名）も関わった。学内教員、大学病院スタッフの安定的な確保のため亥鼻 IPE への参加ルールに基づき教員の協力を得ている。看護学部では、全教員が亥鼻 IPE の教育体験ができるように、教務委員会が教員配置を行っている。薬学部でも全助教が担当するよう教員配置を行っている。医学部も附属病院医師を中心に組織的な教員配置を行っている。本年度から Step1 に工学部医工学コースの3年生が参加することとなり、工学部内では該当科目「医工学実験2」の担当教員をはじめその他の教員を含め教員配置の調整を行い FD への参加もあった。

実際の教員の参加人数および役割は、別資料に示す。（資料3）

②「亥鼻 FD プロジェクト」の充実・拡充

「亥鼻 FD プロジェクト」は、千葉大学の医療系学部（医学部・薬学部・看護学部）が集まる亥鼻キャンパスにおいて、【教員の教育能力発展】と【効果的なコラボレーションスキルの獲得】を目指

すプログラムを開発・実践するプロジェクトとして、IPERC 及び看護学研究家学術推進企画委員会が共同開催している。本年度は、ほぼ月に 1 回のペースで、9 回実施した。

(1)実施内容

実施内容は、大きく以下の「シリーズ」に分けられる。

- ・シリーズ「アクティブラーニングの技法」(4 回実施)
- ・シリーズ「チームメイキングとメンバーシップ」(2 回実施)
- ・シリーズ「効果的なプレゼンテーション」(3 回実施)
- ・その他「VR 体験」(1 回実施)

「英語を用いた FD」(1 回実施)

各回の概要を以下に記す。

<第 4 回> (注、回数は平成 28 年度からの通算のものである) 「効果的な PBL (Problem-based learning) のコツ」

【シリーズ】アクティブラーニングの技法

【目的】本 FD では、PBL の体験を通して、効果的な PBL のコツ (PBL におけるファシリテーターの役割など) について参加者ともに考える。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員

【日時】平成 29 年 4 月 26 日 (水) 17:30-18:30

【場所】看護・医薬総合教育研究棟北棟 184 号室

【内容】

- ・ PBL の流れ
- ・ PBL 体験
- ・ コアタイムにおける学習者の役割
- ・ チューターの役割

【講師】伊藤 彰一 講師 (医学研究院 医学教育研究室)

【参加者数】15 名

<第 5 回> 「Backwards Design: Designing and developing effective outcome-based teaching sessions and educational programs」

【シリーズ】アクティブラーニングの技法

【目的】効果的な学習者中心の授業をデザイン・構築するためのツールとなる Backward Design を取り上げ、英語でのディスカッションを行う。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員

【日時】平成 29 年 5 月 25 日 (木) 17:30-18:30

【場所】看護・医薬総合教育研究棟北棟 184 号室

【内容】

- ・ What is Backwards design?
- ・ Backwards Design process"

【講師】Daniel Salcedo 特任助教 (千葉大学医学部 医学教育研究室)

【参加者数】14 名

<第 6 回> 「少人数グループワークにコーチングを活用する」

【シリーズ】アクティブラーニングの技法

【目的】小規模のグループワークで、参加者の発言を引き出すファシリテーションにはどんな工夫があれば良いかを学ぶ。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員

【日時】平成 29 年 6 月 22 日 (木) 17:30-18:30

【場所】看護・医薬総合教育研究棟北棟 184 号室

【内容】

- ・ グループワーク運営で工夫していること困っていること

- ・アセスメント実施
- ・話題提供（少人数グループワークの例）
- ・コーチングスキルの紹介

【講師】横尾英孝 特任助教（医学部附属病院総合医療教育研修センター）、石丸美奈 准教授（大学院看護学研究科）

【参加者数】15 名

<特別企画>「VR(Virtual Reality)で認知症の世界を「体験」する」

【目的】認知症の人の「世界」をバーチャルリアリティのテクノロジーを使って体験する。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員、その他関心ある方

【日時】平成 29 年 7 月 19 日（水） 18:00-19:30

【場所】看護学研究科第 1 講義室

【内容】・VR 体験

【講師】下河原忠道氏（株式会社シルバーク代表取締役）

【参加者数】14 名

<第 7 回>「多人数クラスでのチームベースラーニング」

【シリーズ】アクティブラーニングの技法

【目的】大人数のクラスでも、講義に頼らず、チームベース学習を活用する方法について、実践的に学ぶ。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員

【日時】平成 29 年 7 月 27 日（木） 17:30-18:30

【場所】看護・医薬総合教育研究棟北棟 184 号室

【内容】・多人数学生対象のチームベースラーニングの実例の紹介と体験
・講義の構成と工夫
・アクティビティのポイント

【講師】諏訪さゆり 教授（看護学研究科）、伊藤彰一 講師（医学研究院医学教育研究室）

【参加者数】10 名

<特別企画>「あなたと組織の異文化感受性を知る：チームの調和とリーダーシップ」

【シリーズ】チームメイキングとリーダーシップ

【目的】多様な側面を持ったチームや組織のメンバーの中で、自分と仲間を活かした活動を推進するためのリーダーシップ・メンバーシップを学ぶ。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員、その他関心ある方

【日時】平成 29 年 8 月 4 日（金）16:00-19:00

【場所】千葉大学亥鼻キャンパス 薬学講義室 12

【内容】・多様性を見つけるワーク
・異文化感受性を育てる極意
・チームの調和をつくりリーダーシップを育むために

【講師】Dr. Akiko Maeker（メーカー 亜希子）

Ph.D., Organizational Leadership Policy and Development, University of Minnesota
Founder, Principal Consultant, Interculturalist, LLC

【参加者数】15 名

<第 8 回>「知らずに損してる！プレゼンテーションの基本」

【シリーズ】効果的なプレゼンテーション

【目的】情報を詰め込みがちになりやすいパワーポイントの効果的な構成や見せ方を、実際にスライドを作る体験ワークショップを通して学ぶ。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員

【日時】平成 29 年 11 月 21 日（火）18:00-19:00

【場所】看護・医薬総合教育研究棟北棟 184 号室

- 【内容】 ・授業時の効果的なプレゼンテーション
・スライドの構成方法
- 【講師】横尾英孝 特任助教（医学部附属病院総合医療教育研修センター）
- 【参加者数】15名

<第9回>「～あなたの声をチームの「力」にする～チームワーク力 UP！研修」

【シリーズ】効果的なプレゼンテーション/チームメイキングとリーダーシップ

【目的】研究・臨床・学習、医療は様々な分野での「チームワーク力」が求められる。色々なタイプの人がいるチームの中で、「自分らしく」チームに貢献して、生産的な対話が創っていく具体的な手法を学ぶ。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員、大学院生、その他関心ある方

【日時】平成29年12月5日（火）17:30-19:00

【場所】千葉大学亥鼻キャンパス 看護学部 第2講義室

【内容】 ・1/29、8/4に続く継続研修（初回参加の方にも対応）
・自分らしい「声」でチームに発信・貢献する力

【講師】Dr. Akiko Maeker（メーカー 亜希子）

Ph.D., Organizational Leadership Policy and Development, University of Minnesota
Founder, Principal Consultant, Interculturalist, LLC

【参加者数】17名

<第10回>「動画教材の効果的な活用法」

【シリーズ】効果的なプレゼンテーション

【目的】授業やe-learningで使う動画教材の活用のメリット、活用のシーン、及び自分たちで撮影する手法とポイントについて、ワークショップ形式で学ぶ。

【対象】千葉大学医学部・看護学部・薬学部の教職員

【日時】平成30年1月18日（木）18:00-19:00

【場所】看護・医薬総合教育研究棟北棟184号室

【内容】 ・なぜ動画撮影か？
・活用のメリットと場面
・動画撮影の現場

【講師】鋪野 紀好 特任助教（千葉大学医学部附属病院総合診療科）、伊藤 彰一 講師（医学研究院医学教育研究室）

【参加者数】19名

(2)「亥鼻FDプロジェクト」の全学のFD担当部局への紹介

平成30年3月1日、全学のFD担当部局であるアカデミックリンクセンター竹内センター長、及び、高等教育研究機構岡田准教授に対して、「亥鼻FDプロジェクト」の成果紹介を行った。竹内センター長からは、来年度以降全学でのFDの推進と共通データベースの整備を図っていくので、継続的に情報共有と協力を頂きたいという打診があった。

(3) 来年度以降の計画

来年度は、昨年度及び今年度の成果から、FDを再設計し、より内容・参加者層を拡充して実施する予定である。

2. 実践・社会貢献

1) IPE 研究拠点からの発信

(1) IPE の FT やコンサルテーション、広報活動

①ホームページ及び Facebook ページの充実

平成 27 年 4 月に専門職連携教育研究センター Facebook ページを開設した。平成 27 年 5 月に専用ホームページを開設し、コンテンツを「亥鼻 IPE」「教育・研修活動」「研究」「勉強会」に分類した。また、研究データベースの構築、海外への発信としており、平成 28 年 3 月には英語版ホームページの作成を行った。2016 年 5 月亥鼻 IPE の紹介動画を HP に掲載した。YouTube との紐付けも行い、広く情報発信している。ジャーナルクラブ等の案内、実施報告、活動実績は、タイムリーな更新を遂行している。

HP を見ての、取材の申し込み・亥鼻 IPE の見学申し込み・ジャーナルクラブ参加への申し込みも数件あった。

今年度は、公式 Facebook において、各 STEP の実施報告、国際交流・国際学会参加報告、ジャーナルクラブなどの研究活動報告、国内研修実施報告など、IPERC の活動のリアルタイムでの発信を強化した。さらに、公式 HP において、Facebook ページをトップページに可視化させ、HP においてもリアルタイムの情報発信を強化させた。HP の英語コンテンツも整備し、海外からのコンタクト及びメディア取材に対応できるようにした。また、個人情報に関わるセキュリティ強化のため、公式 HP 全体に SSL を実装した。今後、IPE に関わる情報やコンテンツのポータル機能も実装予定である。

「亥鼻 FD プロジェクト」については、現在公式 HP とは独立して、関係者のみが閲覧できる HP を運営している。今年度は、参加者への予習資料の提示、終了したプログラムのアーカイブ機能を実装した。今後、亥鼻 FD プロジェクトの HP 及びデータベースについては、全学の FD 担当部局と協議しつつ、整備を進める。

②問い合わせに応じた情報発信・社会貢献

ホームページの問い合わせへのアクセスや電話、メール等により当センターへの情報発信・社会貢献依頼があり、下記の活動を行った。詳細は資料 5 に示した。

国内外の大学や医療機関等から依頼を受けた内容は、「IPE の視察・見学」「IPE 導入に向けた相談」「FD における講師派遣」「学会等における講演・シンポジスト依頼」「医療系雑誌・進学系雑誌等の取材」「医療・保健・福祉現場の職員の連携力向上研修への協力」「IPE 関連研究に関する相談」などであった。

また、IPW 実践能力の評価尺度 CICS29 を開発し、英語論文として発表したことから、問い合わせが増えており、今後特に海外からの依頼の需要が高まると予測できる。

<国内>

－事業委託 1 件

・千葉県から「認知症にかかわる専門職の多職種連携研修事業」の受託

－講師派遣・講演依頼 11 件

- ・他大学における学生や教員への講義
- ・大学以外の機関への講師派遣（看護協会、医療法人、行政機関ほか）
- ・学内からの依頼（大学病院の職員研修、看護学研究科 EOL シンポ、医学部後援会ツアー）

ーコンサルテーション 3 件

- ・亥鼻 IPE への見学

ー情報発信・情報交換 6 件

- ・千葉大学広報室の取材、学会での交流会実施等

ーCICS29 問い合わせ 7 件

<国際関係>

ー外部機関への講師派遣 4 件

（韓国医学教育学会、1st APIPEC、インドネシア大学、トーマス・ジェファーソン大学）

ーコンサルテーション 2 件

- ・インドネシア大学 IPE 実装、IPE 研究への助言

ー情報発信・情報交換 11 件

- ・来学した海外の大学の教員・学生への対応（スイス、タイ、インドネシア、中国）
- ・IPE における学生の交換留学に関するミーティング
- ・海外大学訪問による亥鼻 IPE の紹介

ーCICS29 問い合わせ 3 件

ーその他 2 件

- ・留学生の TA 雇用

2) IPW の促進

（1）大学病院の IPW 改善

本年度は、新たに千葉大学医学部附属病院の新人職員への IPE 研修を導入し、入職時からの IPW 推進に向けた意識付けをめざした機会を持つことができた。

また、現在、診療参加型 IPE 試行事業での現地指導者への調査から、実習受け入れ病棟や指導者への影響を分析中である。実習受け入れが IPW 改善にどう役立っているかの認識が明確になる予定である。

また、当センターの研究事業である【プロジェクト研究Ⅱ】では、千葉大学医学部附属病院の多職種せん妄ケアチーム、看護学研究科教員、IPERC 教員が研究員となり「せん妄に対する多職種チームアプローチの実装」をテーマに研究を進めた。その過程で職種間の IPW を促進することを目的として取り組んだ。

（2）千葉の地域包括ケアシステム構築

①千葉市での地域活動

千葉市の東千葉地区への関わりは、平成 27 年度から始まっている。

本年度は、千葉市地域包括ケア推進課と連携し、看護学研究科の石丸准教授・大学病院竹内特任准

教授と共に千葉市東千葉地区の地域住民による地域活動「地域の和・輪・環（わわわ）の会」に継続して関わった。定例会での講義、住民への地域活動への関心調査に協力した。（井出特任准教授）

また、東千葉地区の住民7名に、看護学研究科共同災害看護学専攻(DNGL)の「災害時専門職連携演習(災害 IP 演習)」協力をしていただいた。これらのように、双方向の協力関係を維持できた。

また、普遍科目看護学部担当科目として開講されている地域コア「チームで取組む地域活動入門」では、演習の教材として東千葉地区の地域活動を取り上げている。科目担当者である看護学研究科の石丸准教授と共に IPERC 教員も一部を担当した。（井出特任准教授）

②千葉県下の保健医療福祉職への研修への協力

平成 28 年度に講師依頼を受けて協力した「千葉県 認知症にかかわる専門職の多職種連携研修」が好評であったため、本年度は千葉県から業務委託を受けて企画・実施・評価の一連の業務を実施することとなった。研修は 2 回実施し、合計 162 名の参加があった。参加職種は、看護職 50 名（31%）、介護職 47 名（29%）、介護支援専門員 15 名（9%）、社会福祉士・ソーシャルワーカー 14 名（9%）、理学療法士 9 名、作業療法士 8 名、薬剤師 8 名、精神保健福祉士 2 名、言語聴覚士 2 名、生活相談員・支援員 2 名、歯科医師 1 名、臨床検査技師 1 名等であった。

業務委託を受けたことは、外部機関から連携力向上に向けた指導力について信用された証でもあり、今後も継続して委託を受けられるよう努力したい。

・実施日 第 1 回 平成 30 年 1 月 28 日（日）、第 2 回 平成 30 年 3 月 4 日（日）

・実施内容

講義 1 「認知症の現状と行政の取り組み」 山下春菜 千葉県健康福祉部高齢者福祉課 技師

講義 2 「多職種連携に必要な考え方と基礎知識」 酒井郁子 専門職連携教育研究センター長

ワークショップ 1 アイスブレイク・私の仕事紹介 高橋在也 特任講師

ワークショップ 2 他職種とのコミュニケーション方法 臼井いづみ 特任助教

ワークショップ 3 認知症の人の理解 馬場由美子 特命助手

(2 回目のみ (株) シルバーウッド 下河原忠道 代表取締役)

ワークショップ 4 多職種での事例検討 井出成美 特任准教授

3) 政策提言

酒井センター長が、厚生労働省行政推進調査事業の採択を受け、「看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策に関する研究」を実施した。分析結果は、平成 30 年 3 月 16 日に開催されたシンポジウムにて報告され、看護師等学校養成所における IPE 実装に向かった政策提言が行われた。

今後報告書にまとめられる予定である。

3. 研究

1) 研究プロジェクトの組織化、研究の推進

(1) 亥鼻 IPE 卒業生追跡調査の継続と成果発表

亥鼻 IPE では、卒業生の追跡調査を継続して実施し、データを蓄積している。平成 30 年 3 月にも医学部・薬学部 6 年生と看護学部 4 年を対象に卒業時調査を行う予定である。卒業時調査は、多職種連携能力を測定する CICS29 尺度(Sakai et al. 2016)と対人関係の円滑さを測定する KISS18 尺度(菊池 1988)を骨子としたアンケート調査である。高橋特任講師と朝比奈兼務教員が実質的に推進する。

(2) 亥鼻 IPE 教育評価研究の継続

① 亥鼻 IPE (Step1～4) の教育評価研究

亥鼻 IPE では学生のレポートや教育評価をデータとして蓄積している。平成 29 年 7 月に看護学研究科の研究倫理審査委員会に「医・薬・看・工協働の IPE プログラム Step1・2・3・4 の教育評価に関する研究」について審査申請を行い承認された。

2016 年度 Step1 における学生の学習目標の意識化とその把握内容について、最終レポートから質的内容分析を実施した。高橋特任講師を中心に、AMEE(ヨーロッパ医学教育学会、8 月 30 日、ヘルシンキ)にて、「Voices from Students: Interprofessional education competencies and how first grade students catch them in the final report.」の題で口演発表を行った。

2016 年度 Step1 における学生の価値変容の分析を、最終レポートの質的内容分析によって実施した。井出特任准教授を中心に、JAIBE(日本保健医療福祉連携教育学会、9 月 10 日、国際医療福祉大学)にて、「IPS(Interprofessional Socialization)の発展から見た IPE 初期プログラムの評価～亥鼻 IPE・Step1 における最終レポート分析より～」の題で口演発表を行った。

また、亥鼻 IPE4 年間のカリキュラム前後で、学生による看護師イメージの変化を学部間で比較分析したものについて、臼井いづみ特任助教を中心に、ACiNE (アジア看護教育学会、インドネシア、平成 30 年 4 月)にて口演発表予定である。

② 診療参加型 IPE (クリニカル IPE) 試行事業の評価研究

朝比奈兼務教員を中心に、クリニカル IPE に伴う評価研究を継続的に実施してきた。平成 29 年 6 月に、看護学研究科倫理審査委員会で「クリニカル・クラークシップにおける IPE プログラム (クリニカル IPE プログラム) の学習効果と実施上の課題の検討」という研究題目で承認をうけ、研究目標Ⅰ「学習者の実習到達目標および実習内容、実習環境に関する課題抽出と検討」として受講学生への質問紙調査、研究目標Ⅱ「実習指導者の実習到達目標および実習内容、実習環境に関する課題抽出と検討」として指導した教員および現地指導者への質問紙調査を実施した。このデータをもとに、クリニカル IPE の評価研究を、井出特任准教授を中心に、ACiNE (アジア看護教育学会、インドネシア、平成 30 年 4 月)にて口演発表予定である。また、過去 3 年間の学

生のリフレクションの記載内容の分析を実施中である。

(3) IPE テキストの執筆・出版

『医学教育白書』(2018 年)に朝比奈兼務教員による IPE の総説が掲載される予定である。

(4) IPE プロジェクト研究の企画・運営

平成 27 年度から当センターの研究事業としてプロジェクト研究を開始している。本年度は新たな募集はせず、昨年度公募して決定した研究員での継続した研究を実施した。

① プロジェクト研究Ⅰ (IPE)

専門職連携教育のマネジメントに関する研究で、国内外における医療系基礎教育における IPE の現状と課題を明らかにし、IPE マネジメントフレームワークを開発することを目的としている。本年度は、IPERC 特任教員を中心に、下記文献の輪読を行い、専門職連携の基礎となる「信頼」について理解を深める機会を持った。

・ Morton Deutsch, Peter T. Coleman, Eric C. Marcus(eds.), *The Handbook of Conflict Resolution. Theory and Practice*. 2nd ed. Jossey-Bass A Wiley Imprint. San Francisco. 2006.

また、上記(2) 玄鼻 IPE 教育評価研究の継続 の項で記載した研究に取り組んだ。

② プロジェクト研究Ⅱ

特定機能病院における専門職連携実践の構造とアウトカム研究で、特定機能病院のせん妄ケアシステムに関してフィージビリティスタディを実施し、介入内容の妥当性を検証することを目的としている。昨年度応募のあった、附属病院 6 名(医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士)、看護学研究科教員 1 名、IPERC 教員を含めた研究チームで研究を推進した。

「せん妄に対する多職種チームアプローチの実装ー外科病棟におけるせん妄ケアプログラムの実施および評価ー」をテーマに、附属病院にてせん妄のスクリーニングツールの日本語版開発のための調査を続行中であり、現在調査済みデータ入力の段階である。

③ プロジェクト研究Ⅲ

災害時専門職連携実践能力の獲得を目指した教育プログラム開発研究である。災害急性期における専門職連携実践能力を明確にし、教育プログラムを開発することが目的である。

本年度は、6 月 20 日に勉強会を持ち、教育プログラムの実装化に向けた意見交換を行った。

（５）研究成果発表と論文化

平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月におけるセンター長、兼務教員、特任教員による業績は、原著 7 件、学会発表 21 件、単行書 4 件、総説その他 5 件であった。平成 29 年度研究業績として、資料 6 に掲載する。参考までに、平成 28 年度は、原著 2 件、学会発表 37 件、単行書 6 件、総説その他 7 件、平成 27 年度は、学会発表 11 件、単行書 2 件、総説その他 4 件であった。

（研究成果発表：主なもの）

- ・ Association for Medical Education in Europe (AMEE)において、高橋特任講師を筆頭に「Voices from Students: Interprofessional education competencies and how first grade students catch them in the final report」の題で口演発表を行った。

- ・ JAIPE（日本保健医療福祉連携教育学会）において、井出特任准教授を筆頭に「IPS(Interprofessional Socialization)の発展から見た IPE 初期プログラムの評価～亥鼻 IPE・Step1 における最終レポート分析より～」の題で口演発表を行った。

これらは、IPE の学習者がすでに内在している自職種・他職種への偏見と、連携能力の発展・多職種に開かれたアイデンティティの獲得を関連づけた IPS(Interprofessional Socialization モデル) から、亥鼻 IPE の初学年の学習者の学習内容及び価値変容を分析したものである。サンプル数を拡充して、論文化を検討している。

また、クリニカル IPE の学生及び指導者の評価研究、及び、学生による看護師イメージの変化に関する学部間比較研究を、ACiNE（アジア看護教育学会、インドネシア、平成 30 年 4 月）にて口演発表予定である。

4. 組織運営

1) 予算と人材の確保

(1) 外部資金の恒常的な獲得

本年度獲得した外部資金は以下のとおりである。

- ・酒井センター長が、厚生労働省行政推進調査事業の採択を受けた。「看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策に関する研究」を実施した。
- ・千葉県から、「認知症にかかわる専門職の多職種連携研修事業」の受託をうけ、保健医療福祉現場の多職種による IPW の実践能力向上のための研修を実施した。
- ・インドネシアにおけるインドネシア大学の IPE 実装に向けたコンサルテーションの依頼を受け、仲介するコンサルタント会社より業務委託を受けた。「IPE 実装に関わる経験の共有」「IPE 実装過程への助言」を請け負った。

(2) リソースパーソンの組織化

亥鼻 IPE のリソースパーソンは、①Step4 の附属病院のコンサルタント、②ループリックによる学生のパフォーマンス評価を行う医学部及び附属病院の人材、③学生グループのファシリテーターとなる人材である。①は医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、リハ職等、実人数 35 名延べ 58 名が得られた。②は、Step1～4 あわせて 17 名から協力が得られた。③は、本報告書： 1. 教育、 3) FD の充実、(2)亥鼻 IPE の安定的なファシリテーターの確保の組織化、の項に記載したように、各学部のルールに沿って学内の教員を確保し、必要とする Step の FD 受講を義務付けた。

2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

PDCA サイクルをもとに当センターの運営を行い、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正するという中期目標のもとに、①運営委員会の開催、②教育実践研究部会の開催、③亥鼻 IPE Step1～4 の各学部担当教員と連携して亥鼻 IPE を運営した。また、教員自身の学習研究のためにスタディグループによる学習会とジャーナルクラブの開催を継続してきた。特にジャーナルクラブは学内外に門戸を広げ、毎回学内外からの参加者があった。

平成 29 年度の実績は以下のようである。

【①IPERC 運営委員会】

2017 年 5 月 16 日、10 月 24 日、2018 年 2 月 6 日

【②教育実践研究部会】

2017 年 10 月 19 日

【③Step 運営会議】

Step1...2017 年 4 月 21 日、8 月 22 日

Step2...2017 年 3 月 24 日、4 月 14 日、5 月 19 日、8 月 2 日、12 月 8 日

Step3...2017 年 11 月 15 日、12 月 28 日

Step4...2017 年 8 月 23 日、9 月 8 日

【④外部評価委員会】

2018 年 3 月 19 日

【スタディグループ】原則毎週火曜日 12:00～13:00 全 5 回

【ジャーナルクラブ】第 2・4 火曜日 17:00～18:00 全 15 回

3) IPERC の将来構想

本年度は、第 1 期中期目標の最終年度であり、次期、あるいは長期的な展望に立った IPERC のあり方を検討するため、「将来構想委員会」を立ち上げ会議を持った。

第 1 回 将来構想委員会 平成 29 年 10 月 11 日（水）

第 2 回 将来構想委員会 平成 30 年 3 月 29 日（木）

IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 平成 29 年度外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、平成 29 年度外部評価委員会を開催した。

日 時：平成 30 年 3 月 19 日（火）14 時から 16 時

場 所：千葉大学看護学部 大会議室（管理棟 2 階）

出席者：外部評価委員 4 名

川島 啓二	京都産業大学共通教育推進機構 教授
渡邊 秀臣	群馬大学大学院保健学研究科 教授
富田 薫	千葉市保健福祉局包括ケア推進課 課長
永田由美子	千葉大学医学部 SP（模擬患者）会

センター運営委員会委員 13 名

酒井 郁子	専門職連携教育研究センター センター長
織田 成人	大学院医学研究院 教授（医学部教育委員長）
市川 智彦	大学院医学研究院 教授（附属病院副病院長）
石橋 みゆき	大学院看護学研究科 准教授
朝比奈真由美	医学部附属病院 准教授
伊藤 彰一	大学院医学研究院 講師
大久保正人	大学院薬学研究院 助教
眞嶋 朋子	大学院看護学研究科 教授
池崎 澄江	大学院看護学研究科 准教授
井出 成美	大学院看護学研究科 特任准教授
高橋 在也	大学院看護学研究科 特任講師
臼井いづみ	医学部附属病院 特任助教
馬場由美子	大学院看護学研究科 特命助手

欠席者： 外部評価委員 1 名

田邊 政裕 千葉県立保健福祉医療大学 学長

センター運営委員会委員 4 名

相馬 孝博	大学院医学研究院 教授（附属病院医療安全管理部長）
石井 伊都子	医学部附属病院 薬剤部長・教授
田澤 敦代	附属病院 副看護部長
関根 祐子	大学院薬学研究院 教授（薬学部教務委員長）

内容・議事：

酒井センター長から開会の辞があり、中村伸枝研究科長から挨拶があった。

外部評価委員会に関する内規第 5 条に基づき、外部評価委員長・および副委員長を互選にて選出した。委員長に渡邊氏が選出され、委員長が議事進行を行った。まず、井出特任准教授から平成 29 年度事業実施状況と平成 30 年度事業計画について説明があり、質疑応答・意見交換を行った。最後に外部評価委員が講評を述べた。

2. 外部評価委員による講評

欠席した田邊氏以外の4名の外部評価委員には、平成29年度の実施項目について、「A：よくできた、B：ふつう、C：努力を要する」の評価基準で評価をいただいた。表は、評価項目ごとに、評価欄（A・B・C）に外部評価委員の人数を記入し、Aを3点、Bを2点、Cを1点として、評価項目ごとの平均値を算出したものである。外部評価委員からの既述コメント（原文まま）を掲載する。

【教育に関するコメント】

- ①アンケートの解析が着実に行われており、教育の改善に向けた積極的な姿勢が評価される。特に解析結果に誠実に対応していることは、研究への発展に期待できる。
- ②医学部教員の有意な参加はこのセンターの大きな特徴と考えられ、FDに対する熱心な成果と評価される。
- ③IPEの到達目標の可視化は困難だと思うがぜひ進化させてもらいたい。
- ④海外連携も意欲的な点は評価されるが、今後の成果を大いに期待したい。
- ⑤FD/SDは水準も高く充実している。
- ⑥センターの先生方のご努力が素晴らしいと思います。
- ⑦体制が構築されつつあり、年々確実に充実してきている。

【実践・社会貢献に関するコメント】

- ①FBの開設など、広報の取り組みは高く評価される。本センターの取り組みを自己満足に終わらせることなく、広く周知させる努力は地道であるが、その効果はとても大きなものと考えられる。社会貢献するためにも、一般の人からの評価が必要であり、そのためのHP、FBへの積極的な取り組みは大いに期待できるものである。
- ②大学病院以外のフィールド開拓が難しいとのことだが、進捗を期待したい。
- ③地域に目を向けてくださりありがとうございます。

【研究に関するコメント】

- ①研究のプロジェクト体制は整ってきており、今後の成果を期待するものである。
- ②データによる研究成果も優れた成果が期待できるが、IPEの理念や共通の目標等のモデル開発にも引き続き取り組まれない。

【組織運営に関するコメント】

- ①本年度は、外部資金の獲得実績があり、組織的に将来的構想を進めていることは、組織の実質化に高く評価される。
- ②運営はしっかりと設計されている。ただPDCAのクリアさが見えないところがある。

第3回 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会 評価結果（評価者4名）								
長期目標 （～2019）	中期目標（2015～2017）	実施内容（2017）	評価				平均点	
			A(3点)	B(2点)	C(1点)			
教育	1)玄鼻IPEの発展・ 進化	(1)全学のクォーター制導入(2016年)や3学部のカリキュラム改正等に対応した玄鼻IPEの改定を行い、安定的に実施する。	①Step1～3にFTの役割を明確化して導入する。 ②3学部時間割にStep1～4を優先的に確保し、現在の運営方法を2018年度版に改定する。 ③テレビ会議システムの活用を検討する。 ④授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「玄鼻IPE」プログラムを検討する。	2	2		2.5	
		(2)医学5年生・薬学5年生、看護学部4年生にStep5を実施する。		3	1		2.75	
	2)新たなIPEプログラムの開発	(1)海外との交流による多様なIPEプログラムを開発する。	①レスター大学への学生短期留学および玄鼻IPEとの単位互換の可能性を探索し、大学間協定を結ぶ。 ②ガジャマダ大学、インドネシア大学でのIPE学生短期留学の可能性を探索する。 ③交換留学協定を結んでいる米国トーマス・ジェファーソン大学のJapan weekに参加し、「共感」教育に関するワークショップや臨床IPEの視察を行う。 ④千葉県内薬学系大学のコンソーシアムに協力する。 ⑤千葉県内の保健医療福祉系の大学との連携を模索し、IPEイベントを企画する。	3	1		2.75	
		(2)千葉県内の大学間連携によるIPEプログラムを開発する。		3	1		2.75	
		(3)大学院におけるIPEプログラムを開発する。		1	3		2.25	
		(4)他大学との連携によるIPEの開発を行う。		2	2		2.5	
	3)FDの充実	(1)「玄鼻IPE」のFT養成プログラムに関する実証的な検証を行い、プログラムの改善を図る。	IPEを取り入れた災害看護学の大学院教育に参加する。 国内のIPE実施大学と情報交換し、お互いから学ぶ機会を作る。 Step1～4のFD/SDを実施する。	2	2		2.5	
		(2)玄鼻IPEの安定的なFT確保の組織化を諮る。		1	3		2.25	
				4			3	
				3	1		2.75	
実践・ 社会 貢献	1)IPE研究拠点から の発信	医療系大学におけるIPEのFTやコンサルテーションの要請に応じられるよう、広報活動を通して社会に発信する。	看護学研究科科学企画推進室との共同により発足した「玄鼻FDプロジェクト」を充実・拡充させる。 ①HPを充実させる。FBの活用を図る。 ②他大学や海外からの問い合わせに応じて情報発信を行う。（紹介動画英語版の活用）	3	1		2.75	
				3	1		2.75	
	2)IPWの促進	(1)大学病院のIPW改善に貢献する。		4			3	
		(2)千葉県（千葉市）の地域連携事業に協力し、医療と介護の連携および地域包括ケアシステム構築に貢献する。	①大学病院の新人職員研修でIPE研修を企画実施する。 ②大学病院の管理的職位の方々を対象にした研修の企画実施	4			3	
			地域包括ケアシステム構築を推進する千葉県、県内市町村や関係機関の地域連携た多職種協働を促進する研修や専門職育成に協力する。	1	3		2.25	
				1	3		2.25	
	3)政策提言	制度化等具体的な要望書を作成して関係機関に提案する。	厚生労働省科研における研究等を通じて、政策提言をしていく。	3	1		2.75	
					4		2	

研究	IPE/IPWの理論化・体系化、専門職連携学の構築	IPERCの「教育」及び「実践（社会貢献）」に関する研究プロジェクト・チームを複数設置し、研究を企画・遂行する。とりわけ、長期的な展望を視野に、外部資金への応募を検討し、調査協力者について、行政をはじめ、学際的なメンバーから構成される研究チームを組織する。	①玄鼻IPE卒業生追跡調査の継続とデータ分析による成果発表を行う。 ②玄鼻IPEの教育評価研究を継続しデータ分析による成果発表を行う。 ③IPEテキスト(図書)を執筆し出版する。 ④IPEプロジェクト研究事業を継続する。 ⑤研究発表と論文化	1 1 3 1	3 4 1 3		2.25 2.25 2 2.75 2.25	2.3	2.3
組織運営	1) 予算と人材確保 2) PCDA サイクルに基づく組織運営 3) IPERC の将来構想	(1) 研究のための外部資金および教育事業のための外部資金を恒常的に獲得する。 (2) リソース・パースンの登録方法、活用方法等を明確にし、組織化する。 IPERC の研究及び教育活動等に関する運営を PDCA サイクルをもとに実施し、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正し、運営をする。 研究拠点としての IPERC について外部評価を上げる。	①科学研究費補助金の獲得 ②ほか各種外部資金の獲得 玄鼻FDプロジェクトの実施を通じて学内・学外リソース・パースンをリスト化し、必要に応じて活用したり、これらを対象とした研修を行う。 ①運営委員会の開催 ②教育実践研究部会の開催 ③玄鼻IPE Step 1～4の運営会議と連携して玄鼻IPEを運営する。 ④外部評価委員会の開催 ①各短期目標の実現を目指して組織的な活動を行い、その成果を明確にする。 ②センター事業報告書の作成	2 1 1	2 3 3		2.5 2.25 2.25 2.25 2.25	2.4 2.25 2.25 2.25 2.25	2.23

3.外部評価委員の講評のまとめ

PDCA サイクルによるセンター運営を行う上で重要な外部評価を受けた。5名の外部評価委員は、昨年に引き続き、大学教育の専門家、IPE に精通しIPE 国際センターを有している他大学の教員、県内のIPE を実施している大学の教員、県内の地方自治体の保健福祉分野の行政職、亥鼻IPE の協力者という多方面からご参集いただいた。以下、当日出席いただいた4名の外部評価委員の評価・コメントを踏まえて今後の課題を記載した。

(1) 教育について

教育に関しての目標達成への評価点の平均点は、2.6(最大値3点)であった。

講評においては、年々確実に充実してきている点が評価された。各学部教員の一定のコミットをえられていることに対し、FDの充実発展の成果であるとの講評もいただいた。

また、授業評価アンケートや学生の自己評価得点などの解析を教育の改善に反映させていることも評価を得た。

別の観点から、連携協働は医療の世界だけに求められている課題ではなく、他分野でも必要とされている。医療分野でのIPEの到達目標の特徴をどこに置くのかを可視化してほしいとの要望が出された。このことは、IPEの教育研究が進むことで、他分野の教育研究にも貢献できることを意味する。今後の本センターの取り組みの課題として念頭に置いておきたい。

(2) 実践・社会貢献について

実践・社会貢献に関しての評価点の平均点は、2.47点であった。講評においてはおおむね良い評価が得られた。

HPやFBの充実については、IPEを実装しようと考えている教育機関、IPWを推進しようと考えている実践現場の管理者などが、情報を得たり、問い合わせをするきっかけとなっており、その効果についてよい評価を受けた。

また、昨年度に引き続き、千葉市の東千葉地区で行っている住民の自主組織活動への関り、住民のIPEへの協力など双方向の活動について、評価委員からさらなる期待の意見が出た。

(3) 研究について

研究に関しての目標達成への評価点の平均点は、2.3であった。

学生や教員から得た各種データによる教育評価の研究結果だけでなく、IPEの学習理論開発にも取り組むことを期待するコメントがあった。

このことについては、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能を理念とし、「専門職連携学」の大学院の設置をビジョンとして描いている本センターの果たすべき不可欠な役割として認識した。

(4) 組織運営について

組織運営に関しての目標達成への評価点の平均点は、2.23であった。

外部資金の獲得実績に対し、組織運営を安定させている点で高評価を受けた。

外部評価の評価の視点については、まず自己評価の結果を示し、その上で外部評価委員の評価を受けたほうが良いという意見をいただいた。

V. 資料

(資料1) IPERC 事業目標

	長期目標(2015～2019)	中期目標(2015～2017)	短期目標(2016)
教育	1) 亥鼻IPEの発展・進化	(1) 亥鼻IPEの改定、安定的実施	① Step1～3にFTの役割を明確化して導入する。
			② 各学部の時間割に亥鼻IPEを確保し、2018年度の運営方法を改定する。
			③ テレビ会議システム活用を検討する
			④ 授業評価アンケートや教員アンケートを基に、教育@プログラムの課題を集約し、次年度のプログラムの検討する
	2) 新たなIPEプログラムの開発	(1) 海外との交流	① 診療参加型IPEの施行を大学病院で実施する。
			① レスター大学への学生短期留学および亥鼻IPEとの単位互換の可能性を模索し、大学間協定を結ぶ。
			② ガジャマダ大学、インドネシア大学でのIPE学生短期留学の可能性を模索する。
			③ 交換留学協定を結んでいる米国トーマスジェファーソン大学のJapan weekに参加し、「共感」教育に関するWSや臨床IPEの視察を行う
		(2) 千葉県内の大学間連携	① 千葉県内薬学系大学のコンソーシアムに協力する。
			② 千葉県内の保健医療福祉系の大学との連携を模索し、IPEイベントを企画する
			IPEを取り入れた災害看護学の大学院教育に参加する。
			国内のIPE実施大学と情報交換しお互いから学ぶ機会をつくる。
	3) FDの充実	(1) 「亥鼻IPE」のFT養成プログラム	Step1～4のFD/FTを実施する。
		(2) 亥鼻IPEの安定的なFT確保の組織化	① 各学部の学内教員、大学病院スタッフによる亥鼻IPEへの参加ルールにのっとり参加者を確保する。
実践・社会貢献	長期目標	中期目標	短期目標
	1) IPE研究拠点からの発信	IPEのFTやコンサルテーション、広報活動	① HPを充実させる。FSの活用を図る
	2) IPWの促進	(1) 大学病院のIPW改善	② 他大学や海外からの問い合わせに応じて情報発信を行う。
		(2) 千葉の地域包括ケアシステム構築	① 大学病院の新人職員研修でIPE研修を企画実施する。
	3) 政策提言	制度化等要望書を作成、関係機関に提案	② 大学病院の管理的職員の職員を対象にした研修を企画実施する。
			地域包括ケアシステム構築を推進する千葉県、県内市町村、関係機関の地域連携や多職種協働を促進する研修や専門職育成に協力する
研究	長期目標	中期目標	短期目標
	IPE/IPWの理論化・体系化、専門職連携学の構築	研究プロジェクト・チームを複数設置し研究を企画・遂行。研究チームの組織化	① 亥鼻IPE卒業生追跡調査の継続とデータ分析による成果発表を行う。
			② 亥鼻IPEの教育評価研究を継続しデータ分析による成果発表を行う。
			③ IPEテキスト(図書)を執筆し出版する。
			④ IPEプロジェクト研究事業を継続する。・プロジェクト研究Ⅰ：公募による研究員の自発的IPE関係研究・プロジェクト研究Ⅱ：附属病院の研究員によるせん妄チーム研究・プロジェクト研究Ⅲ：災害時専門職連携実践能力の獲得を目指した教育プログラム開発
			⑤ 研究発表と論文文化
組織運営	長期目標	中期目標	短期目標
	1) 予算と人材確保	(1) 外部資金を恒常的に獲得	① 科学研究費補助金の獲得
		(2) リソースパーソンの組織化	② ほか各種外部資金の獲得
	2) PCDAサイクルに基づく組織運営	PDCAサイクルをもとに実施し、必要が	学内リソースパーソンおよび学外リソースパーソンをリスト化し、科目に応じた説明会あるいは研修を行う。
	3) IPERCの将来構想	外部評価を受ける。	① 運営委員会の開催
			② 教育実践研究部会の開催
			③ 亥鼻IPE Step1～4の運営会の開催
			④ 外部評価委員会の開催
			① 各短期目標の実現を目指して組織的な活動を行い、その成果を明確にする。
			② センター事業報告書の作成

(資料2) 亥鼻 IPE 数値実績

受講学生数 (総計10,159名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				クリニカルIPE				合計	
	医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部		計
2007~2010	415	335	328		1078	302	249	243	794	199	163	93	-	455	95	89	41	225	-	-	-	2552
2011	113	84	86		283	119	86	84	289	103	84	39	-	226	102	76	43	221	-	-	-	1019
2012	117	85	88		290	115	80	87	282	119	83	37	-	239	101	85	38	224	-	-	-	1035
2013	118	84	88		290	116	86	89	291	123	83	44	-	250	123	85	35	243	-	-	-	1074
2014	119	84	83		286	117	83	87	287	120	81	50	-	251	124	81	49	254	-	-	-	1078
2015	121	83	87		291	116	85	83	284	130	83	46	16	275	113	83	42	238	4	4	3	1099
2016	119	80	84		283	119	84	87	290	123	85	45	5	258	131	83	40	254	15	13	13	1126
2017	118	84	86	54	342	117	80	84	281	125	80	45	5	255	124	84	40	248	17	17	16	1176

協力教員及び外部機関専門職 ※IPERC教員を除く (総計1227名)

*医学部は附属病院医師含む。

**附属病院は医師以外

年次	Step1（教員）					Step2（教員、外部機関専門職）					Step3（教員、外部機関専門職）						
	*医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計
2007～2010	31	44	37	-	112	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2011	8	10	10	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2012	8	11	9	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2013	13	14	13	-	40	4	6	5	0	0	15	4	6	5	0	-	15
2014	12	15	15	-	42	5	5	7	0	0	17	4	10	6	3	40	63
2015	17	12	6	-	35	7	7	6	22	22	42	15	8	5	3	24	55
2016	16	10	7		33	6	6	7	2	1	22	7	13	6	3	1	30
2017	14	11	7	10	42	6	6	6	2	1	21	8	10	6	-	-	24

年次	Step4											クリニカルIPE					合計						
	医学部	看護学部	薬学部	附属病院							外部機関	計	医学部	看護学部	薬学部	附属病院							
				医師	看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士						心理カウンセラー		遺伝カウンセラー	管理栄養士	医師	看護師	薬剤師	
2007~2010	1	2	2	11	10	3	3	3	3	2	6	1	1	4		49	-	-	-	-	49		
2011	2	6	2	9	6	1	3	3	3	2	3	1	1	2	1	42	-	-	-	-	154		
2012	3	4	2	11	7	3	2	3	3	1	5	1	1	4		47	-	-	-	-	75		
2013	5	6	3	9	9	3	3	3	3	1	5	1	2	4		54	-	-	-	-	82		
2014	3	5	3	10	9	3	3	3	3	1	4	1	1	4		50	-	-	-	-	120		
2015	1	8	5	16	9	3	3	3	3	2	5	1	1	4		61	2	4	1	3	12	195	
2016	1	9	7	14	9	4	3	3	3	2	7	0	2	4		65	2	5	2	13	22	63	260
2017	2	7	6	13	9	5	3	3	3	1	7	1	2	4		63	2	8	3	14	20	14	209

協力TA [大学院生] (総計236名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				合計		
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計	医学部	看護学部	薬学部		その他	計
2007~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	3	1	2	1		4	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	4	2	3	1		6	19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	0	1	1	3	0	1	5	12
2017	1	2	4	7	1	0	5	6	1	2	2	0	5	4	1	4	0	9	27

実習協力施設（総計569施設）

年次	Step1		Step2						クリニックIPE	
	病院	病院	診療所・ クリニック	薬局	訪問看護 ステーション	回復期リハ ビリテー ション病棟	保健機関・ 介護福祉施 設	計	附属病院 診療科	合計
2007～2010	24	15	32	52	25	-	21	145	-	169
2011	6	5	11	15	11	-	8	50	-	56
2012	6	5	9	22	9	-	4	49	-	55
2013	6	6	12	21	6	-	3	48	-	54
2014	7	6	11	17	6	3	2	45	-	52
2015	6	6	11	15	5	4	3	44	2	52
2016	6	7	11	15	5	6	3	47	10	63
2017	7	11	10	15	5	3	5	49	12	68

FD/SDの参加者数（総計1185名） *2016～亥鼻FDプロジェクト開始

年次	Step1	Step2		Step3	Step4	*その他	合計
		実習施設 担当者	ファシリ テーター				
2007～2010	88	44	-	-	28	105	265
2011	17	33	-	-	23	-	73
2012	17	31	-	-	17	-	65
2013	20	17	-	-	25	-	62
2014	31	15	-	61	25	-	132
2015	10	28	43	52	24	22	179
2016	21	42	-	29	35	54	181
2017	23	21	-	21	29	134	228

授業に協力いただいた患者団体(総計77団体)

2007～2010	48
2011	17
2012	2
2013	2
2014	2
2015	2
2016	2
2017	2

(資料3) 学習のまとめ (別冊)

(資料4) 平成29年度 試行事業報告 クリニカル IPE (別冊)

(資料5) 地域貢献事業実績

【国内】

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
1	事業委託	行政機関	千葉県健康福祉部高齢者福祉課	認知症に関わる多職種協働研修の講師	認知症の現状と行政の取り組み 専門職連携の基礎的知識 ワークショップ	2018/1/28 2018/3/4	10:00～15:30	千葉大学玄鼻キャンパス 看護・医療系総合研究棟	酒井 郁子 センター長 特任 井出 成美 特任 高橋 在也 特任 臼井 いづみ 特命 馬場 由美子
2	講師派遣	学内	千葉大学医学部附属病院	大学病院入職者研修	講義とワークショップ	2017/4/3	12:30～13:30		酒井 郁子 センター長 兼務 朝比奈 真由美 兼務 伊藤 彰一
3	講師派遣	学内	医学部	医学教育リトリートにおける医学部教員へのFD	IPEの説明とプロフェッショナル教育について	2017/8/5		千葉大学玄鼻キャンパス	兼務 朝比奈 真由美
4	講師派遣	他大学	兵庫医科大学 兵庫医科大学	チーム医療演習における特別講義	専門職連携実践/IPWと専門職連携教育/IPEの基礎知識	2017/9/5	13:00～14:00	兵庫医科大学	特任 井出 成美
5	講師派遣	他大学	北海道医療大学	基調講演(学生・教員)		2017/10/28	9:00～16:00	北海道医療大学	兼務 朝比奈 真由美
6	講師派遣	学内	看護学研究科	エンドオブライフシンポジウムでの講演	IPERCのエンドオブライフ教育への貢献	2017/11/11		千葉大学大学院看護学研究科	特任 井出 成美
7	講師派遣	保健医療福祉機関	医療法人 逵仁会 法人本部	「多職種連携(IPW)研修会」講師	IPWに必要な考え方と基礎的知識 ワークショップ	2017/11/20	9:30～16:50	札幌市	酒井 郁子 センター長 特任 井出 成美
8	講師派遣	職能団体	静岡県看護協会	看護教員養成プログラムにおける看護教育方法の講義・演習	IPE/IPCPの基礎知識 看護学校におけるIPEの実態 ワークショップ:IPE体験と評価、看護学校におけるIPEの計画立案	2017/11/27	9:30～16:00	静岡県看護協会	特任 井出 成美 特命 馬場 由美子
9	講師派遣	他大学	筑波大学	FDの講師		2017/12/5		筑波大学	兼務 朝比奈 真由美
10	講師派遣	その他	日本ベーリンガーインゲルヘルハイム(株)	糖尿病におけるチーム医療を考える会における講演	講義「専門職連携教育 IPE: InterProfessional Education」	2017/12/18	19:00～19:40	高松市内	特任 井出 成美
11	講師派遣	職能団体	青森県看護協会	平成29年度病床機能転換専門研修	看護職と介護職、知っているようで知らないお互いのこと	2018/2/24	10:30～15:30	下北文化会館	特任 井出 成美 特命 馬場 由美子
12	講師派遣	他大学	兵庫医科大学	教員FD	IPEに関する講演及びワークショップ	2018/3/13		兵庫医科大学	兼務 朝比奈 真由美
13	コンサル(授業視察)	大学以外の教育機関	学校法人 青照学舎 メディカルカレッジ青照館 運営機構改革推進室	IPE Step2の見学依頼	IPE Step2の見学対応	2017/6/8	12:50～16:00	千葉大学玄鼻キャンパス	酒井 郁子 センター長 兼務 朝比奈 真由美 特任 井出 成美
14	コンサル(授業視察)	他大学	高崎健康福祉大学 薬学部薬学科 臨床薬学教育センター	IPE Step4の見学依頼	IPE Step4の見学対応	2017/9/13	8:50～16:00	千葉大学CCSC	酒井 郁子 センター長 兼務 朝比奈 真由美 特任 井出 成美
15	コンサル(授業視察)	学内	千葉大学医学部附属病院	玄鼻IPE Step4の見学	IPE Step4の見学対応	2017/9/14		千葉大学医学部附属病院	特任 井出 成美 特任 臼井 いづみ 特任 馬場 由美子

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
16	コンサル(授業 視察)	学内	附属病院スタッフ	IPE Step4の見学依頼	IPE Step4の見学対応	2017/9/14	13:00-15:00	千葉大学CCSC	特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特任 馬場由美子
17	情報発信	学内	千葉大学医学部後援会	病院見学会	医学部学生の家族を対象とした病院見学会においてIPEの説明	2017/6/24	AM 15分間	千葉大学医学部附属病院がんネットホール	兼務 朝比奈真由美
18	情報発信	学内	看護学研究科	オープンキャンパスでのIPEのPR	玄鼻IPEおよびIPERCに関するポスター掲示	2017/8/9		看護学研究科	特任 井出成美
19	情報発信	学会	千葉看護学会	交流集会の企画	看護職と介護・福祉職の対象理解における共通言語	2017/9/9		看護学研究科	特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特任 馬場由美子
20	情報発信	学内	千葉大学広報室	広報誌「ちばだいブレス」12月号 発行42号 取材	玄鼻IPE特集 Step4演習の取材 学生インタビュー	2017/9/21	10:30-16:30	千葉大学クリニック・スキルズ・センター CCSC	特任 井出 成美 特任 馬場 由美子
21	情報発信	学内	千葉大学広報室	広報誌「ちばだいブレス」12月号 発行42号 取材	玄鼻IPE特集 対談企画、取材	2017/11/17	13:00-14:30	IPERC	酒井 郁子センター長
22	情報発信	他大学	長崎県立大学	玄鼻IPEに関する情報収集	特にStep1についての情報収集	2018/3/20	14:00-16:00	IPERC	特任 井出成美
23	CIGS29	他大学	久留米大学医療センター総合診療科	CIGS29を使いたい	CIGS29を使いたい	2017/4/18			酒井 郁子センター長
24	CIGS29	保健医療福祉機関	医療法人あい ハンディクリニック	CIGS29の使用を検討したい	CIGS29の使用を検討したい	2017/5/30			酒井 郁子センター長
25	CIGS29	保健医療福祉機関	浜松北病院 地域医療支援課	CIGS29を使いたい	CIGS29を使いたい	2017/6/8			酒井 郁子センター長
26	CIGS29	保健医療福祉機関	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 4階南病棟回復期リハビリテーション病棟	CIGS29を使いたい	CIGS29を使いたい	2017/9/〇			酒井 郁子センター長
27	CIGS29	他大学	日本赤十字秋田看護大学 看護学部	CIGS29を使いたい	CIGS29を使いたい	2017/9/23			酒井 郁子センター長
28	CIGS29	他大学	首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 看護倫理・管理	CIGS29を使いたい	CIGS29を使いたい	2017/10/30			酒井 郁子センター長
29	CIGS29	他大学	新潟青陵大学大学院看護学研究科2年 勤務先:新潟大学医学総合病院	CIGS29を使いたい	CIGS29を使いたい	2018/1/7			酒井 郁子センター長

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
1	講師派遣	学会	韓国医学教育学会	招待講演	IPE in Chiba Univ.; Development of Inohana IPE and Future.	2017/6/2	14:00-15:00	Daejeon 韓国	兼務 朝比奈真由美
2	講師派遣	学会	The 1st Asia-Pacific Interprofessional Education and Collaboration (APIPEC)	左記における座長およびスピーカーとしての招待	Conferenceへの座長およびスピーカーとしての招待	2017/10/13-10/15		BEST WESTERN PREMIER SOLO BARU (SURAKARTA)	酒井郁子センター長
3	講師派遣	その他	ユニコインターナショナル インドネシア大学	インドネシア University Hospital Establishment Body in University of Indonesiaへのコンサルテーション	千葉大学のIPEの歴史・概要・教育内容等についてセミナー開催 インドネシア大学の病院運営とIPEに関するマスタープラン策定へのコンサルテーションミーティング 2018年度インドネシア大学におけるIPEセミナーに関する協議	2017/10/17		University of Indonesia (Jakarta)	酒井センター長 特任 井出成美 特任 日井いつみ 特命 馬場由美子
4	コンサル(カリキュラム)	その他	ユニコインターナショナル インドネシア大学	IPEについてのコンサルテーション	専門職連携教育研究センター見学 専門職連携教育研究センターについて説明 質疑応答、写真撮影 大学病院視察	2017/7/13		千葉大学 IPERC 千葉大学医学部附属病院	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 高橋在也 特任 日井いつみ 特命 馬場由美子
5	コンサル(カリキュラム)	その他	ユニコインターナショナル インドネシア大学	インドネシア University Hospital Establishment Body in University of Indonesiaへのコンサルテーション	新設病院の開業準備業務のためのコンサルテーション 専門職連携における運営側の役割・病院経営へのインパクト等を学ぶ	2017/12/5		千葉大学 IPERC 千葉大学医学部附属病院	酒井センター長 特任 井出成美 特任 日井いつみ 特命 馬場由美子
6	情報発信	学内	看護学研究科	来学中のスイス University of Applied Sciences and Arts Western Switzerland Health Councilの教員への対応	専門職連携教育研究センター見学 専門職連携教育研究センターについて説明 質疑応答、写真撮影	2017/4/27	午前中	千葉大学 IPERC	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 高橋在也 特任 日井いつみ 特命 馬場由美子
7	情報発信	学内	医学部	米国 トーマスジェファソン大学で開催のJapanweekへの参加	*5th Anniversary of the Japan Center for Health Professions Education and Research as part of Japan Week への参加およびワークショップでのプレゼンテーション・IPEセンターの活動について聞き取り・病院の見学・共同研究に向けた話あい	2017/5/1~5/7		Thomas Jefferson University (Philadelphia)	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 高橋在也 兼務 朝比奈真由美 兼務 伊藤彰一
8	情報発信	学内	看護学研究科	来学中のタイのコンケン大学看護学部生への対応	専門職連携教育研究センター見学 専門職連携教育研究センターについて説明 質疑応答、写真撮影	2017/7/28		千葉大学 IPERC	井出成美 特任 高橋在也 特任 日井いつみ 特命 馬場由美子

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
9	情報発信	他大学	イギリス University of Leicester	IPE情報交換 交換留学検討	欧州のIPEおよび医学教育・看護学教育についての情報収集 千葉大学とのIPEに関する交換留学の方向性についてのミーティング	2017/8/29		University of Leicester(Leicester)	酒井郁子センター長
10	情報発信	他大学	イギリス University of St. George	IPE情報交換 交換留学検討	欧州のIPEおよび医学教育・看護学教育についての情報収集 千葉大学とのIPEに関する交換留学の方向性についてのミーティング	2017/9/1		University of St. George(London)	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美
11	情報発信	他大学	ドイツ University of duesseldorf	IPE情報交換 交換留学検討	欧州のIPEおよび医学教育・看護学教育についての情報収集 千葉大学とのIPEに関する交換留学の方向性についてのミーティング	2017/9/3		University of duesseldorf (duesseldorf)	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美
12	情報発信	他大学	ドイツ Charite Universitats Medizin(Berlin)	IPE情報交換 交換留学検討	欧州のIPEおよび医学教育・看護学教育についての情報収集 千葉大学とのIPEに関する交換留学の方向性についてのミーティング	2017/9/4		Charite Universitats Medizin(Berlin)	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美
13	情報発信	他大学	デンマーク University of Aarfus	IPE情報交換 交換留学検討	欧州のIPEおよび医学教育・看護学教育についての情報収集 千葉大学とのIPEに関する交換留学の方向性についてのミーティング	2017/9/5 -9/6		University of Aarfus (コペンハーゲン)	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美
14	情報発信	行政機関	千葉県 Medical college of Wisconsin,Office of Educational Improvement	米国 Medical college of Wisconsin,Office of Educational Improvement ほかでの国際交流	千葉県友好使節団として、米国ウィスコンシン州との医学・文化・教育分野での交流 IPEに関する情報収集	2017/10/8- 10/14		Medical college of Wisconsin,Office of Educational Improvement(ほか (ミルウォーキー)	特任 高橋在也
15	情報発信	学会	The 1st Asia-Pacific Interprofessional Education and Collaboration (APIPEC)	左記への参加	Conferenceへの参加およびネット ワーク構築	2017/10/13- 10/15		BEST WESTERN PREMIER SOLO BARU (SURAKARTA)	特任 井出成美 特任 日井いづみ 特命 馬場由美子
16	情報発信	学内	看護学研究科	来学中のインドネシア Gadjah Mada University の教員と院生へのワーク シヨップ	IPEに関する情報提供 IPEを発展させるためのディスカッション	2017/10/31	13:30-15:00	千葉大学 IPERC	特任 井出成美 特任 高橋在也 特任 日井いづみ 特命 馬場由美子
17	情報発信	学内	医学部	台北医学大学への対応	IPE Programに関する情報提供	2017/11/2	12:40-13:20	千葉大学医学部3F 会議室	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美 兼務 伊藤彰一
18	CICS29	他大学	Assistant Professor of Medicine University of Colorado USA	CICS29をを使いたい	CICS29を使いたい	2017/5/15			酒井 郁子センター長

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
19	CICS29	他大学	Master in Case Care Manager of Parma's University Italy	CICS29の翻訳をしたい	CICS29の翻訳をしたい	2017/6/7			酒井 郁子センター長
20	CICS29	他大学	Department of Medical Education Faculty of Medicine, Universitas Indonesia	CICS29の翻訳をしたい	CICS29の翻訳をしたい	2017/10/30			酒井 郁子センター長
21	その他	その他		中国 千葉大学大学院 医学薬学府院生(留学生)の活用	亥鼻IPEのStep1およびStep2のTAとして雇用	2017/4月~5月		千葉大学亥鼻キャンパス	特任 井出成美 特任 高橋在也 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
22	その他	その他		中国 千葉大学大学院 医学薬学府および看護学研究科院生(留学生)の活用	亥鼻IPEのStep4のTAとして雇用	2017/9/13-9/15 9/19-9/21		千葉大学 亥鼻キャンパス	特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子

(資料6) 平成 29 年度研究業績

特任教員および兼務教員の研究業績を下記に示す。下線は兼務教員、二重下線は特任教員を示す。

[原著]

1. 大久保 正人, 高橋 由佳, 山下 純, 高橋 秀依, 宮田 興子, 鈴木 貴明, 石井 伊都子: 実務実習における薬学部授業内容の活用状況に関する薬学部生を対象としたアンケート調査と解析, 薬学雑誌 137 巻 6 号, 745-755, 2017.
2. Fujita J; Fukui S; Ikezaki S; Otaguro C; Tsujimura M: Analysis of team types based on collaborative relationships among doctors, home-visiting nurses and care managers for effective support of patients in end-of-life home care., Geriatrics & Gerontology International [Geriatr Gerontol Int], Vol. 17 (11), 1943-1950, 2017.
3. 内田陽子, 井出成美, 小山晶子, 桐生育恵, 松井理恵, 尾池久美子, 亀ヶ谷忠彦, 横山知行, 佐藤由美: 認知症サポーター活動に関する実態と今後の課題 群馬県内への調査結果より, 群馬保健学研究, 37 巻, 63-68, 2017.
4. 杉田由加里, 井出成美, 石川麻衣, 池崎澄江, 中山健夫: 自治体の特定保健指導における特定健康診査質問票の活用状況, 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 39 号, 27-34, 2017.
5. 高橋在也: 心の傷の時代における芸術の再解釈 - ジョルジュ・ルオーを例に -, 総合人間学研究, 11, 131-140, 2017.
6. 山口多恵, 酒井郁子, 黒河内仙奈: "アンラーニング" の概念分析. 千葉看会誌, 23(1), 1-10, 2017.
7. Tomotaki A, Fukahori H, Sakai I, Kurokuchi K: The development and validation of the Evidence-Based Practice Questionnaire. Japanese version DOI:10.1111/ijn.12617, 2017.

[学会発表抄録]

8. 藤田 淳子, 乙黒 千鶴, 福井 小紀子, 岩原 由香, 池田 良輔子, 池崎 澄江, 辻村 真由子: 地域終末期ケアを支える医療介護連携マニュアルの有効性(第 1 報) 終末期の医療介護連携マニュアルの作成, 日本在宅医学会大会 19 回, 134, 2017.
9. 辻村 真由子, 福井 小紀子, 藤田 淳子, 乙黒 千鶴, 池崎 澄江, 岩原 由香, 池田 良輔子: 地域終末期ケアを支える医療介護連携マニュアルの有効性(第 2 報) 連携マニュアル使用前の終末期ケアにおける多職種連携の理解・認識と行動, 日本在宅医学会大会 19 回, 134, 2017.
10. 朝比奈 真由美, 黒河内 仙奈, 酒井 郁子, 井出成美, 関根 祐子, 伊藤 彰一: クリニカル IPE に対する臨床指導者からのフィードバック, 医学教育 48 巻 Suppl., 223, 2017.
11. Takahashi Z., Ide N., Usui I., Baba Y., Fujinuma Y. & Sakai I.: Voices from students: Interprofessional competencies and how first grade students catch them in the final report, Association for Medical Education in Europe Conference, 2017.
12. 井出成美, 高橋在也, 臼井いづみ, 馬場由美子, 藤沼康樹, 酒井郁子: 学生の IPS (Interprofessional Socialization) の発展からみた IPE 初期プログラムの評価 - 亥鼻 IPE/Step1 における最終レポート分析より -, 第 10 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 60, 2017.
13. 高橋在也, 足立智孝, 清水直美ほか: 市民に対するエンドオブライフケア教育プログラムの影響, 日本エンドオブライフケア学会第 1 回学術集会抄録集, 36, 2017.
14. 高橋在也: 宮沢賢治と高橋元吉, 宮沢賢治学会第 27 回定例会プログラム集, 4, 2017.
15. 久保田健太郎, 石丸美奈, 大塚真理子, 井出成美: 住民・大学・行政のパートナーシップによる「我が事・丸ごと」の地域づくり, 日本公衆雑誌, 64 巻 10 号特別付録, 455, 2017.
16. 杉田由加里, 井出成美, 石川麻衣, 石川みどり: 後期高齢者の健康増進に向けた保健指導におけるアセスメント, 日本公衆雑誌, 64 巻 10 号特別付録, 511, 2017.
17. Majima T., Sakai I., Asahina M., Ide N., Baba Y., Usui I., Ito S., Ikezaki S.: Nursing Students' Experience of Clinical Interprofessional Education in the Intensive Care Unit, The 7th Hong Kong International Nursing Forum, 2017.
18. 天井響子, 山口一大: 思春期の子どもが持つ「地域の居場所」に対するニーズの多様性とその背景, 日本発達心理学会 第 28 回大会(広島大学), 2017.
19. 天井響子: 青年期前期における援助要請結果期待尺度作成の試み大学生を対象とした回顧的インタビュー調査, 日本教育心理学会第 59 回総会 (名古屋大学), 2017.

20. 湯浅美千代, 松岡千代, 亀井智子, 藤崎あかり, 京極真, 酒井郁子: シンポジウム 2: 高齢者が最期まで輝く人生を送るためのチームの力; 老年専門職チーム医療における老年看護のコンピテンシーの創造. 急性期で高齢者をケアするチームに求められるミッション. 日本老年看護学会第 22 回学術集会抄録集, 73, 2017.
21. 呑香美佳子, 黒河内仙奈, 酒井郁子: 急性期病院における身体拘束縮小の取り組みとその効果. 日本老年看護学会第 22 回学術集会抄録集, 153, 2017.
22. 柴田三奈子, 黒河内仙奈, 酒井郁子: 地域包括ケアシステム構築にむけた自組織のエンドオブライフケア体制の確立ーエンドオブライフケア実践マニュアルの作成と評価. 日本老年看護学会第 22 回学術集会抄録集, 165, 2017.
23. Matsuoka C, Sakai I, Fukahori H, Kurokuchi K, Tomotaki A, Laura C : Promoting Evidence-Based Practice Globally Evidence-Based Leadership Institute: A Model to Develop Nurse Leaders. 28TH INTERNATIONAL NURSING RESEARCH CONGRESS, Dublin Ireland, 2017.
24. 杉本なおみ, 酒井郁子, 藤沼康樹, 大西広高: 医師・看護師間連携能力の鍵を握る「クリティカルポイント」事例. 第 9 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会プログラム・抄録集, 23, 2017.
25. 菅原聡美, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 国立大学病院の看護師リーダーが必要とするコンピテンシー獲得のための必要な支援と阻害する要因ー看護師リーダーと管理者の認識. 第 21 回日本看護管理学会学術集会, 255, 2017.
26. 小宮浩美, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 精神科の地域生活移行支援のためのエンパワーメントアプローチ・プロトコルの実践適用ーアプリテーションのフィージビリティー. 第 21 回日本看護管理学会学術集会, 268, 2017.
27. 樋浦裕里, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 回復期リハビリテーション病棟の看護職と介護職間における I P W (Interprofessional Work) 推進の取り組みー患者中心のリハビリテーション医療の提供をめざしてー. 日本リハビリテーション看護学会第 29 回学術大会, 83, 2017.
28. 小宮浩美, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 精神科の地域生活移行支援のためのエンパワーメントアプローチ・プロトコルの実践適用の促進・阻害要因. 第 37 回日看科会学術集会, 056-2, 2017.

[総説・その他]

29. 朝比奈 真由美: 本物のプロフェッショナルを育成する専門職連携教育(IPE), 日本歯科衛生教育学会雑誌 (2186-3881)8 巻 1 号, 1-4, 2017.
30. 杉本なおみ, 酒井郁子, 藤沼康樹, 大西弘高: 二職種間意思決定プロセスを円滑にする教育プログラムの開発と評価 「医師・看護師間連携のクリティカルポイント」調査. 保健医療福祉連携, 10 (1) , 71, 2017.
31. 酒井郁子: 徹底討論!多職種連携教育(IPE)は薬学に何をもたらすのか? 医療職種教育に及ぼす IPE の影響と薬剤師に期待すること 看護師の視点から. 薬学雑誌, 137 (7) ,
32. 酒井郁子, 井出成美, 藤沼康樹, 高橋在也, 臼井いづみ, 馬場由美子, 山田響子, 吉岡智子, 高野佳奈ほか編: 文部科学省国立大学改革強化促進補助金 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 平成 28 年度事業報告書, 2017.
33. 高橋在也: 市民を対象としたエンド・オブ・ライフ 教育のプログラム及び教材開発, 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団, 2015 年度(後期) 一般公募「在宅医療研究への助成」完了報告書, 2017.

[単行書]

34. 酒井郁子: ケアの根拠を、ことばにしよう! かたちにして! リハビリ病棟における EBP(根拠に基づく実践)の進め方(1)EBP を理解しよう. Rehabilitation nurse. 10 (1) , メディカ出版, 84-88, 2017.
35. 酒井郁子: ケアの根拠を、ことばにしよう! かたちにして! リハビリ病棟における EBP(根拠に基づく実践)の進め方(2)回リハ病棟の特徴を理解して EBP を進めよう(1)改善テーマを見つける. Rehabilitation nurse, メディカ出版, 10 (2) , 198-201, 2017.
36. 酒井郁子: ケアの根拠を、ことばにしよう! かたちにして! リハビリ病棟における EBP(根拠に基づく実践)の進め方(3)回リハ病棟の特徴を理解して EBP を進めよう(2)自分たちの組織を理

解する. *Rehabilitation nurse*, メディカ出版, 10 (3) , 300-303, 2017.

37. 井出成美, : 地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり. 宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編『最新公衆衛生看護学 総論 第2版』日本看護協会出版会, 326-330, 2017.

[講演・シンポジウム]

38. 酒井郁子, 西垣昌和, 牧本清子, 茅明子: 第10回 JANS セミナー 社会への貢献を組み立て実装する看護研究. 日本看護科学学会 研究・学術情報委員会主催 第10回 JANS セミナー, 2017.
39. 酒井郁子, 吉富望, 原尻賢司, 宮崎美砂子: パネルディスカッション1 災害時の専門職連携におけるリーダーシップの開発と課題. 第21回日本看護管理学会学術集会, 144, 2017.
40. 小池智子, 酒井郁子, 福井小紀子, 石田昌宏, 伊達仁人: 特別企画第2 老年看護学における国際研究部パネルディスカッション 看護の政策研究と実装の戦略. 第21回日本看護管理学会学術集会, 88, 2017.
41. 酒井郁子, 北川公子, 深堀浩樹: 老年看護政策検討委員会企画 認知症ケア加算がもたらした影響と今後の展望. 日本老年看護学会第22回学術集会, 88, 2017.
42. 山本則子, 酒井郁子, 今野理恵, 村山洋史, 牧本清子, Younhee kang: シンポジウム3: 老年看護学における国際研究. 日本老年看護学会第22回学術集会抄録集, 75, 2017.
43. 酒井郁子, 原尻賢司, 安村誠司, 中山建夫: シンポジウム1 市民・患者と多職種の連携: 『共有価値』の創造へ 災害時の専門職連携に必要な実践能力の獲得を目指した学習. 第9回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会プログラム・抄録集, 10, 2017.
44. 井出成美, 酒井郁子, 高橋在也, 臼井いづみ, 馬場由美子, 藤沼康樹: 交流集会4 看護職と介護・福祉職の対象理解における共通言語. 千葉看護第23回学術集会, 61, 2017.
45. 酒井郁子: 教育講演Ⅱ 専門職連携実践に求められる看護職としてのコンピテンシー. 第19回日本救急看護学会学術集会, 79-80, 2017.
46. 酒井郁子: 招聘講演 INOHANA(Chiba) IPE's Development and Curriculum Management since Start-up to the Present. Chiba University Experience in interprofessional education(IPE) and interprofessional collaborative practice(IPCP) implementation, インドネシア大学, 2017.
47. 酒井郁子: 教育講演Ⅱ 回復期リハビリテーション病棟における根拠に基づいた実践. 日本リハビリテーション看護学会第29回学術集会, 36-37, 2017.
48. Ide N: Activities of Interprofessional Education Research Center as an Educational Foundation. The 3rd International End-of-Life Care Symposium, Vision for the Centre of Excellence for EOL Care, 27-40, 2017.
49. 井出成美: 招聘講演 IPE Program at Chiba University. Chiba University Experience in interprofessional education(IPE) and interprofessional collaborative practice(IPCP) implementation, インドネシア大学, 2017.
50. 臼井いづみ: 招聘講演 Simulation Based Education in IPE. Chiba University Experience in interprofessional education(IPE) and interprofessional collaborative practice(IPCP) implementation, インドネシア大学, 2017.
51. 酒井郁子: 基調講演 看護師等学校養成所における IPE の可能性. シンポジウム 看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策, 厚生労働行政推進調査事業費補助金, 2018.
52. 井出成美: IPE の実装と課題. シンポジウム 看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策, 厚生労働行政推進調査事業費補助金, 2018.



IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の 3 つの学部からはじまった
亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成さ
れました。

文部科学省 国立大学改革強化促進補助金
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
平成 29 年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究科専門職連携教育研究センター
編集者：酒井郁子、井出成美、高橋在也、臼井いづみ、馬場由美子、山田響子、高野佳奈
発行日：平成 30（2018）年 3 月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
E-mail : inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※ 本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めてくださいますよう、お願いいたします。